2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月13日

上場会社名　　株式会社アミューズ　　上場取引所　東
コード番号　　4301　　ＵＲＬ　https://www.amuse.co.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役会長　兼　社長　　（氏名）大里　洋吉
問合せ先責任者　（役職名）経営企画部長　　（氏名）鈴木　啓太　　Ｅ－ＭＡＩＬ　amuseir@amuse.co.jp

半期報告書提出予定日　2026年11月13日　　配当支払開始予定日　2026年12月４日

決算補足説明資料作成の有無：　有

決算説明会開催の有無　　：　有　　（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	34,476	△14.3	1,546	△68.8	1,665	△66.6	983	△69.8
2026年３月期中間期	40,205	8.0	4,955	154.9	4,991	148.5	3,258	―

（注）包括利益　2027年３月期中間期　1,341百万円（△66.2%）　2026年３月期中間期　3,965百万円（424.0%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	60.64	―
2026年３月期中間期	200.44	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	61,203	39,729	60.4
2026年３月期	62,499	38,785	57.7

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　36,971百万円　2026年３月期　36,064百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	20.00	―	20.00	40.00
2027年３月期	―	32.00			
2027年３月期（予想）			―	32.00	64.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	55,000	△21.0	2,000	△67.3	2,100	△66.3	1,250	△53.6	77.09

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：　無

新規　－社　（社名）－、除外　－社　（社名）－

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　有

（注）詳細は、添付資料Ｐ.11「２．中間連結財務諸表及び主な注記（４）中間連結財務諸表に関する注記事項（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご参照ください。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	17,688,520株	2026年３月期	18,623,520株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	1,473,053株	2026年３月期	2,408,265株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	16,215,327株	2026年３月期中間期	16,255,153株

（注）期末自己株式数には、「役員報酬ＢＩＰ信託」及び「株式付与ＥＳＯＰ信託」が保有する当社株式（2027年３月期中間期588,680株、2026年３月期588,880株）が含まれております。また、「役員報酬ＢＩＰ信託」及び「株式付与ＥＳＯＰ信託」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（2027年３月期中間期588,847株、2026年３月期中間期351,072株）。

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ.５「１.経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

（決算補足説明資料の入手方法について）

１．決算補足説明資料はＴＤｎｅｔ及び当社ウェブサイトに同日公開しております。

２．当社は、2026年11月20日（金）に機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。この説明会にて使用する決算補足説明資料は、同日中に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 4
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 5
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 6
（１）中間連結貸借対照表 …… 6
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 8
中間連結損益計算書 …… 8
中間連結包括利益計算書 …… 9
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 10
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 11
（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記） …… 11
（セグメント情報等の注記） …… 11
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 13
（継続企業の前提に関する注記） …… 13
（重要な後発事象） …… 13

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

〔連結経営成績〕

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）	増減	増減率 （％）
営業収入	40,205	34,476	△5,729	△14.3
営業利益	4,955	1,546	△3,408	△68.8
経常利益	4,991	1,665	△3,325	△66.6
親会社株主に帰属する中間純利益	3,258	983	△2,274	△69.8

〔連結経営成績の分析〕

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、景気は緩やかに回復しているとみられるものの、直近の中東情勢の影響等により、不確実性の高い環境下で推移しました。景気の先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されますが、中東情勢の影響を注視する必要があると考えられます。また、金融資本市場の変動にも注意する必要があると考えられます。

このような状況の中、当中間連結会計期間における当社グループの業績は以下のようになりました。

営業収入につきましては、主に福山雅治「WE’RE BROS.TOUR 2026『龍、雷乃発声』」「NISSAY PRESENTS WE’RE BROS. TOUR 2026 DOME LIVE 龍、涼風至」や桑田佳祐「桑田佳祐 夏祭りツアー2026 supported by カンロ」、IVE「IVE WORLD TOUR ‘SHOW WHAT I AM’」といった大型コンサートツアーの開催がイベント収入における増収要因となったものの、前年同期におけるサザンオールスターズLIVE TOUR 2025「THANK YOU SO MUCH!!」や星野源「Gen Hoshino presents MAD HOPE」、Perfume「Perfume ZO/Z5 Anniversary “ネビュラロマンス” Episode TOKYO DOME」等の大型コンサートツアー、ブロードウェイミュージカル「キンキーブーツ」等の開催の反動減によりイベント収入が大幅に減少したこと及びこれらに係るグッズ・商品収入が減少したこと等の要因により営業収入は前年同期比で減収となりました。

営業利益につきましては、大型コンサートツアー案件等に係る制作経費の減少、経費コントロールの実施等により営業費用は前年同期比で減少したものの、上記の減収の影響が営業費用の減少の影響を大幅に上回ったことにより前年同期比で大幅な減益となりました。

経常利益につきましては、受取利息及び配当金の増加や為替差益の計上等が増益要因となったものの、上記の営業利益の大幅な減益の影響により前年同期比で大幅な減益となりました。

親会社株主に帰属する中間純利益につきましては、上記の減益要因に加えて前年同期における特別利益の計上の反動及び特別損失の計上による減益に法人税等の計上を加味した結果、こちらも前年同期比で大幅な減益となりました。

上記の結果、当中間連結会計期間における当社グループの経営成績は営業収入344億７千６百万円（前年同期比14.3％減）、営業利益15億４千６百万円（前年同期比68.8％減）、経常利益16億６千５百万円（前年同期比66.6％減）、親会社株主に帰属する中間純利益９億８千３百万円（前年同期比69.8％減）となりました。

各セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

なお、当中間連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。以下の比較及び分析は変更後の区分に基づき記載しております。

〔営業収入〕

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）	増減	増減率 （%）
イベント関連事業	25,839	20,046	△5,793	△22.4
音楽・映像事業	8,856	8,961	104	1.2
出演・CM事業	3,570	3,994	424	11.9
報告セグメント合計	38,266	33,002	△5,264	△13.8
その他	1,938	1,474	△464	△24.0
合計	40,205	34,476	△5,729	△14.3

〔セグメント利益又は損失（△）〕

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）	増減	増減率 （%）
イベント関連事業	3,208	377	△2,831	△88.2
音楽・映像事業	1,356	1,078	△278	△20.5
出演・CM事業	678	493	△185	△27.3
報告セグメント合計	5,243	1,949	△3,294	△62.8
その他	△288	△402	△113	－
合計	4,955	1,546	△3,408	△68.8

〔イベント関連事業〕

当該セグメントにおきましては、主に福山雅治「WE’RE BROS.TOUR 2026『龍、雷乃発声』」「NISSAY PRESENTS WE’RE BROS. TOUR 2026 DOME LIVE 龍、涼風至」や桑田佳祐「桑田佳祐 夏祭りツアー2026 supported by カンロ」、IVE「IVE WORLD TOUR‘SHOW WHAT I AM’」といった大型コンサートツアーの開催が増収要因となったものの、前年同期におけるサザンオールスターズLIVE TOUR 2025「THANK YOU SO MUCH!!」や星野源「Gen Hoshino presents MAD HOPE」、Perfume「Perfume ZO/Z5 Anniversary “ネビュラロマンス” Episode TOKYO DOME」等の大型コンサートツアー、ブロードウェイミュージカル「キンキーブーツ」等の開催の反動減及びこれらに係るグッズ・商品収入の減少等の要因により前年同期比で減収となりました。また、利益面では大型コンサートツアー案件等に係る制作経費の減少、経費コントロールの実施等により営業費用は前年同期比で減少したものの、上記の減収の影響が営業費用の減少の影響を大幅に上回ったことにより前年同期比で大幅な減益となりました。

上記の結果、営業収入は200億４千６百万円（前年同期比22.4%減）、セグメント利益は３億７千７百万円（前年同期比88.2%減）となりました。

〔音楽・映像事業〕

当該セグメントにおきましては、主に㈱極東電視台の番組制作収入の減少や大型コンサートツアー等に係るライブ・ビューイング売上の減少等が減収要因となったものの、福山雅治新作オリジナルアルバム「超新星」に係るレーベル収入の計上や映画「国宝」を始めとする劇場配給収入等の分配金の収益計上、アニメ作品のライセンス売上、「生誕50周年記念!!大泉洋リサイタル」等のBlu-Ray・DVD売上等が増収に貢献した結果、前年同期比で増収となりました。セグメント利益につきましては主に連結子会社における番組制作原価等の営業費用の増加等の影響が上記の増収の影響を上回ったことにより、前年同期比で減益となりました。

上記の結果、営業収入は89億６千１百万円（前年同期比1.2%増）、セグメント利益は10億７千８百万円（前年同期比20.5%減）となりました。

〔出演・ＣＭ事業〕

当該セグメントにおきましては、主に㈱アミューズコミュニケーションデザインの企業広告制作収入の増加及び福山雅治、桑田佳祐、FLOW、BABYMETAL、星野源、吉沢亮等に係るＣＭ収入及び出演料収入の増加等により前年同期比で増収となりました。セグメント利益につきましては主に㈱アミューズコミュニケーションデザインにおける企業広告制作費用等の営業費用の増加の影響が上記の増収の影響を上回ったことにより前年同期比で減益となりました。

上記の結果、営業収入は39億９千４百万円（前年同期比11.9%増）、セグメント利益は４億９千３百万円（前年同期比27.3%減）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

〔連結財政状態〕

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）	増減
総資産　（百万円）	62,499	61,203	△1,296
純資産　（百万円）	38,785	39,729	943
自己資本比率　（%）	57.7	60.4	2.7
１株当たり純資産　（円）	2,224.11	2,280.00	55.89

〔連結財政状態の分析〕

当中間連結会計期間末の総資産は612億３百万円となり、前連結会計年度末に比べ12億９千６百万円減少いたしました。これは主に受取手形及び営業未収入金が７億４千６百万円、有価証券が５億２千３百万円、投資有価証券が６億１百万円増加したものの、現金及び預金が26億６千３百万円、未収入金が６億３千８百万円減少したこと等によるものであります。

当中間連結会計期間末の負債は214億７千４百万円となり、前連結会計年度末に比べ22億４千万円減少いたしました。これは主に営業未払金が６億８千１百万円増加したものの、未払法人税等が８億１千３百万円、契約負債が４億７千４百万円、賞与引当金が４億５百万円、未払金等の減少に起因する流動負債の「その他」が13億７千４百万円減少したこと等によるものであります。

当中間連結会計期間末の純資産は397億２千９百万円となり、前連結会計年度末に比べ９億４千３百万円増加いたしました。これは主に2026年７月に実施した自己株式の消却により資本剰余金が８億４千８百万円、利益剰余金が４億１千１百万円減少したものの、当該消却により自己株式が12億６千万円減少するとともに親会社株主に帰属する中間純利益９億８千３百万円の計上等により利益剰余金が２億３千５百万円、保有株式の時価評価額の増加によりその他有価証券評価差額金が１億６千３百万円増加したこと等によるものであります。この結果、自己資本比率は60.4%（前期末は57.7%）となりました。

〔連結キャッシュ・フロー〕

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,573	△988	△6,562
投資活動によるキャッシュ・フロー	△857	△1,217	△360
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,149	△430	719

〔連結キャッシュ・フローの分析〕

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ26億１千１百万円減少し、当中間連結会計期間末には237億２百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は下記のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は９億８千８百万円（前年同期は55億７千３百万円の獲得）となりました。

これは、主に税金等調整前中間純利益の計上16億１千７百万円、減価償却費の計上２億８千万円、営業債務の増加額６億９千６百万円、未収入金の減少額６億４千３百万円等があったものの、一方で営業債権の増加額７億３千４百万円、未払消費税等の減少額６億２千２百万円、その他の流動負債の減少額16億９千３百万円、法人税等の支払額13億２千７百万円等があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は12億１千７百万円（前年同期は８億５千７百万円の使用）となりました。

これは、主に有形固定資産の取得による支出２億２千４百万円、有価証券の取得による支出５億円、投資有価証券の取得による支出３億６千９百万円及び出資金の払込による支出１億１千１百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は４億３千万円（前年同期は11億４千９百万円の使用）となりました。

これは、主に配当金の支払額３億３千７百万円及び非支配株主への配当金の支払額６千１百万円によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2026年５月15日付「2026年３月期　決算短信」で公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

※上記の予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,669	24,005
受取手形及び営業未収入金	10,057	10,804
有価証券	4,927	5,450
商品及び製品	1,085	1,163
仕掛品	3,143	2,924
原材料及び貯蔵品	70	107
未収入金	2,243	1,605
その他	1,294	1,753
貸倒引当金	△21	△24
流動資産合計	49,470	47,791
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,121	3,327
土地	800	800
その他（純額）	1,025	594
有形固定資産合計	4,947	4,722
無形固定資産		
のれん	329	299
その他	523	467
無形固定資産合計	853	767
投資その他の資産		
投資有価証券	4,754	5,356
繰延税金資産	1,193	1,139
その他	1,280	1,426
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	7,228	7,921
固定資産合計	13,029	13,411
資産合計	62,499	61,203

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
営業未払金	12,488	13,170
１年内返済予定の長期借入金	34	28
１年内償還予定の社債	20	20
未払法人税等	1,399	585
契約負債	3,317	2,843
賞与引当金	483	78
役員賞与引当金	36	－
従業員株式給付引当金	30	133
その他	4,405	3,030
流動負債合計	22,215	19,890
固定負債		
社債	40	30
長期借入金	111	97
役員株式給付引当金	93	158
退職給付に係る負債	1,202	1,246
その他	50	51
固定負債合計	1,498	1,583
負債合計	23,714	21,474
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,587	1,587
資本剰余金	2,474	1,625
利益剰余金	34,573	34,809
自己株式	△3,662	△2,401
株主資本合計	34,973	35,621
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	616	780
為替換算調整勘定	373	475
退職給付に係る調整累計額	100	93
その他の包括利益累計額合計	1,090	1,349
非支配株主持分	2,720	2,757
純資産合計	38,785	39,729
負債純資産合計	62,499	61,203

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業収入	40,205	34,476
営業原価	32,522	30,301
営業総利益	7,683	4,175
販売費及び一般管理費	2,727	2,628
営業利益	4,955	1,546
営業外収益		
受取利息及び配当金	36	84
施設利用料収入	12	－
為替差益	－	29
その他	16	36
営業外収益合計	65	149
営業外費用		
為替差損	23	－
事業組合投資損失	1	27
その他	5	3
営業外費用合計	29	31
経常利益	4,991	1,665
特別利益		
投資有価証券売却益	76	－
固定資産売却益	0	2
その他	2	－
特別利益合計	79	2
特別損失		
固定資産売却損	－	49
その他	－	1
特別損失合計	－	50
税金等調整前中間純利益	5,070	1,617
法人税等	1,546	535
中間純利益	3,523	1,081
非支配株主に帰属する中間純利益	265	98
親会社株主に帰属する中間純利益	3,258	983

（中間連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	3,523	1,081
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	504	163
為替換算調整勘定	△56	102
退職給付に係る調整額	△5	△6
その他の包括利益合計	441	259
中間包括利益	3,965	1,341
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	3,700	1,242
非支配株主に係る中間包括利益	265	98

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	5,070	1,617
減価償却費	326	280
のれん償却額	29	29
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△10	3
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△44	△36
役員株式給付引当金の増減額（△は減少）	42	64
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	5	33
従業員株式給付引当金の増減額（△は減少）	△1	103
受取利息及び受取配当金	△36	△84
投資有価証券売却損益（△は益）	△76	－
営業債権の増減額（△は増加）	△601	△734
棚卸資産の増減額（△は増加）	268	96
営業債務の増減額（△は減少）	4,205	696
未払消費税等の増減額（△は減少）	471	△622
未収入金の増減額（△は増加）	△351	643
その他の流動資産の増減額（△は増加）	△207	△279
その他の流動負債の増減額（△は減少）	△1,711	△1,693
その他	△1,019	136
小計	6,358	256
利息及び配当金の受取額	36	83
利息の支払額	△1	△1
法人税等の支払額	△888	△1,327
法人税等の還付額	68	－
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,573	△988
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△93	△88
定期預金の払戻による収入	107	140
有形固定資産の取得による支出	△425	△224
無形固定資産の取得による支出	△73	△41
有価証券の取得による支出	－	△500
有価証券の売却による収入	133	－
投資有価証券の取得による支出	△49	△369
投資有価証券の売却による収入	78	－
関係会社株式の取得による支出	△216	－
出資金の払込による支出	△196	△111
敷金及び保証金の差入による支出	△110	△52
その他	△10	29
投資活動によるキャッシュ・フロー	△857	△1,217
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△22	△20
社債の償還による支出	△20	△10
自己株式の取得による支出	△700	△0
配当金の支払額	△338	△337
非支配株主への配当金の支払額	△66	△61
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,149	△430
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	24
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	3,567	△2,611
現金及び現金同等物の期首残高	27,466	26,313
現金及び現金同等物の中間期末残高	31,034	23,702

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

当社及び一部の連結子会社における税金費用につきましては、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他（注）１	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額（注）３
	イベント関連事業	音楽・映像事業	出演・ＣＭ事業	計			
営業収入							
イベント収入	16,729	－	－	16,729	－	－	16,729
ファンクラブ・商品売上収入	9,110	－	－	9,110	－	－	9,110
音楽収入	－	3,346	－	3,346	－	－	3,346
映像収入	－	5,420	－	5,420	－	－	5,420
その他音楽・映像収入	－	89	－	89	－	－	89
出演・ＣＭ収入	－	－	3,570	3,570	－	－	3,570
その他収入	－	－	－	－	1,938	－	1,938
顧客との契約から生じる収益	25,839	8,856	3,570	38,266	1,938	－	40,205
外部顧客への営業収入	25,839	8,856	3,570	38,266	1,938	－	40,205
セグメント間の内部営業収入又は振替高	336	13	37	387	347	△735	－
計	26,175	8,870	3,608	38,654	2,286	△735	40,205
セグメント利益又は損失（△）	3,208	1,356	678	5,243	△288	－	4,955

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に新規事業やＩＴ支援、顧客対応等を含んでおります。

２．営業収入の調整額はセグメント間取引消去であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

４．全社費用につきましては、合理的な配賦基準に基づき各事業に配賦しております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他（注）１	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額（注）３
	イベント関連事業	音楽・映像事業	出演・ＣＭ事業	計			
営業収入							
イベント収入	11,557	－	－	11,557	－	－	11,557
ファンクラブ・商品売上収入	8,489	－	－	8,489	－	－	8,489
音楽収入	－	3,934	－	3,934	－	－	3,934
映像収入	－	4,715	－	4,715	－	－	4,715
その他音楽・映像収入	－	311	－	311	－	－	311
出演・ＣＭ収入	－	－	3,994	3,994	－	－	3,994
その他収入	－	－	－	－	1,474	－	1,474
顧客との契約から生じる収益	20,046	8,961	3,994	33,002	1,474	－	34,476
外部顧客への営業収入	20,046	8,961	3,994	33,002	1,474	－	34,476
セグメント間の内部営業収入又は振替高	330	25	11	367	406	△773	－
計	20,376	8,986	4,006	33,370	1,880	△773	34,476
セグメント利益又は損失（△）	377	1,078	493	1,949	△402	－	1,546

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に新規事業やＩＴ支援、顧客対応等を含んでおります。

２．営業収入の調整額はセグメント間取引消去であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

４．全社費用につきましては、合理的な配賦基準に基づき各事業に配賦しております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

３．報告セグメントの変更等に関する事項

従来、当社グループの報告セグメントは、「イベント関連事業」、「音楽・映像事業」及び「出演・ＣＭ事業」の３区分としておりましたが、各区分の個々の事業の経営実態及び収益力をより的確に把握し、業績管理を強化すべく従来のセグメント区分の見直しを行いました。

その結果、「イベント関連事業」に含めていた新規事業やＩＴ支援、顧客対応等につきましては当中間連結会計期間より「その他」として記載することといたしました。

また、当中間連結会計期間より、報告セグメントごとの業績をより適切に管理するため、一部の全社費用の配賦方法を変更しております。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報は、変更後の区分及び方法により作成したものを記載しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2026年７月24日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき自己株式935,000株を消却することを決議し、同年７月31日付で消却を実施しました。この結果、当中間連結会計期間において資本剰余金が848百万円、利益剰余金が411百万円、自己株式が1,260百万円それぞれ減少するとともに、当中間連結会計期間末において資本剰余金が1,625百万円、利益剰余金が34,809百万円、自己株式が2,401百万円となっております。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。